

RFC3261(SIP)に基づくマルチメディア通信システム
付加サービス機能
相互接続試験実施要領
－ ステップ1 －

RFC3261 (SIP)に基づくマルチメディア通信システム付加サービス機能相互接続試験
実施要領 ーステップ1ー

改訂履歴

版	改訂年月日	改訂内容	担当
1	2009.5.14	初版制定	野澤、五十嵐
1.1	2010.5.28	見直し改版	野澤、五十嵐

本書は、HATS 推進会議が著作権を保有しています。
内容の一部又は全部を HATS 推進会議の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及び
ネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

目 次

1. 背景及び目的	6
1-1. 背景.....	6
1-2. 目的.....	6
1-3. 相互接続試験の範囲.....	6
1-4. 備考（謝辞）.....	7
2. 試験の前提条件	8
2-1. 準拠すべき標準.....	8
2-2. 必須前提試験.....	9
3. 相互接続試験の実施方法	10
3-1. 試験環境.....	10
3-2. 実施方法.....	10
3-3. 試験手順.....	10
3-4. 試験項目.....	11
3-5. 試験の結果判定.....	11
3-6. オプション試験項目（参考）.....	12
4. 発信番号通知 試験方法	13
4-1. 試験条件.....	13
4-2. 試験手順.....	13
4-3. 合否判定.....	14
4-4. 試験結果の記入.....	14
4-5. オプション試験（参考）.....	15
4-5.1 発信番号非通知.....	15
5. セッションタイム 試験方法	16
5-1. 試験条件.....	16
5-2. 試験手順.....	16
5-3. 合否判定.....	17
5-4. 試験結果の記入.....	17
6. 100REL 試験方法	18
6-1. 試験条件.....	18
6-2. 試験手順.....	18

6-3. 合否判定	18
6-4. 試験結果の記入	18
7. 保留転送 試験方法.....	19
7-1. 試験条件	19
7-2. 試験手順	20
7-2.1 保留・保留応答	20
7-2.2 保留転送	21
7-3. 合否判定	23
7-4. 試験結果の記入	23
7-5. オプション試験 (参考)	24
7-5.1 保留・保留応答 (被保留端末切断時の動作) ... 【オプション試験】	24
7-5.2 保留・保留応答 (INVITEによるセッションタイムとの複合) ... 【オプション試験】	25
7-5.3 保留転送 (転送先がビジー時の動作) ... 【オプション試験】	29
7-5.4 条件転送 (無条件転送) ... 【オプション試験】	30
8. 音声コーデック追加 試験方法	32
8-1. 試験条件	32
8-2. 試験手順	32
8-3. 合否判定	32
8-4. 試験結果の記入	32
9. キャンセル (発信途中放棄) 試験方法	34
9-1. 試験条件	34
9-2. 試験手順	34
9-3. 合否判定	34
9-4. 試験結果の記入	34
10. リジェクト・ビジー (着信拒否・話中応答) 試験方法.....	35
10-1. 試験条件	35
10-2. 試験手順	35
10-3. 合否判定	35
10-4. 試験結果の記入.....	35
11. ストレス試験 試験方法	36
11-1. 試験条件の確認.....	36
11-2. 試験手順	36
11-2.1 通話中ケーブル抜去.....	36

1 1 - 3. 合否判定	37
1 1 - 4. 試験結果の記入.....	37
1 1 - 5. オプション試験 (参考)	37
1 1 - 5. 1 通話中電源断/アプリケーション強制終了	37
1 2. 結果の取り扱いと今後の検討課題	38
1 2 - 1. 試験の取り扱い.....	38
1 2 - 2. その他.....	38
別紙1 SIP 付加サービス機能試験 結果一覧	39
別紙2 発信番号通知試験 チェックシート	40
別紙3 セッションタイム試験 チェックシート	41
別紙4 100REL試験 チェックシート.....	42
別紙5-1 保留・保留応答試験 チェックシート.....	43
別紙5-2(基本パターン1) 保留転送試験 チェックシート(組み合わせ NO.1 と NO.2).....	44
別紙5-2(基本パターン2) 保留転送試験 チェックシート(組み合わせ NO.3 と NO.4).....	45
別紙5-3 保留・保留応答(被保留端末切断時の動作) オプション試験 チェックシート	46
別紙5-4 保留・保留応答(INVITE によるセッションタイムとの複合) オプション試験 チェックシート	47
別紙5-5 保留転送(転送先ビジー時の動作) オプション試験 チェックシート	48
別紙5-6 条件転送(無条件転送) オプション試験 チェックシート	49
別紙6 音声コーデック追加試験 チェックシート	50
別紙7 キャンセル(発信途中放棄)試験 チェックシート	51
別紙8 リジェクト・ビジー(着信拒否・話中応答)試験 チェックシート.....	52
別紙9 ストレス試験 チェックシート.....	53

1. 背景及び目的

1-1. 背景

IETF(The Internet Engineering Task Force)にて標準化された RFC3261(SIP: Session Initiation Protocol)は、最近普及の目覚ましい LAN を用いてマルチメディア通信を可能とするものであるが、その健全な発展と普及を図るためには、端末間の相互接続に関するさまざまな課題を解決し、その成果を標準にフィードバックする必要がある。

1-2. 目的

上記標準に基づく製品が市場に広まりつつある状況の中で、各ユーザーにおける円滑なデジタルテレビ電話・会議システムの利用を促進するためには、各製品間での相互接続性の確保が必要不可欠である。しかしながら、今後予想される製品機能の多様化により標準に準拠し製造されている製品同士でも相互接続性が必ずしも確保されていない場合があり、相互接続試験の実施による接続性の確認が必要となる。

本「実施要領」は上記の状況の中で各社の製造する装置間での付加サービス機能の相互接続性を確認するために実施すべき相互接続試験の内容、手順について規定するものである。

今後、本「実施要領」に基づき、具体的な相互接続試験が実施され、各製品間の相互接続性の確保が図られ、その結果、我が国におけるデジタルテレビ電話・会議システムの本格的な展開に向けた環境の整備が進展するとともに、標準自体の実効性も高められ、新たな標準を策定していく場合の参考として活用されることが期待される。

1-3. 相互接続試験の範囲

本「実施要領」による相互接続試験の対象は、IETF(The Internet Engineering Task Force)が制定した標準仕様 RFC3261(SIP)に基づいた装置の付加サービス機能を範囲とする。ステップ1では付加サービス機能の特定を図って相互接続性の試験実施について規定するものであり、今後必要に応じて随時充足していくものである。

1-4. 備考（謝辞）

付加サービス機能の接続試験手順には、「VoIP推進協議会 相互接続試験分科会」が制定した以下のガイドラインを参照した。

- (1) 『VoIP 相互接続 基本疎通試験オプション試験 実施ガイドライン 第5版』
- (2) 『VoIP 相互接続 実証実験 実施ガイドライン 第7版 発信者番号送受信試験』
- (3) 『RFC3261(SIP)に基づくマルチメディア通信システム 拡張機能接続試験実施ガイドライン
ー 保留/転送機能編 ー』 3版 2006年1月6日

2. 試験の前提条件

2-1. 準拠すべき標準

図2.1にSIPのマルチメディア通信端末を示す。本システムの相互接続に関して準拠すべき代表的標準を以下に示す。

- (1) RFC 3261 セッション開始プロトコル (SIP)
- (2) RFC 3262 SIPにおける暫定応答の信頼性
- (3) RFC 3264 SDPを使ったオファー/アンサーモデル
- (4) RFC 4028 SIPにおけるセッションタイム
- (5) RFC 5359 SIPのサービス例
- (6) RFC 3515 SIP Referメソッド
- (7) RFC 4566 セッション記述プロトコル (SDP)
- (8) RFC 3550 リアルタイム伝送プロトコル (RTP)
RTP制御プロトコル (RTCP)
- (9) JT-H 261 p×64kbit/s オーディオビジュアル・サービス用ビデオ符号化方式
- (10) JT-H 263 低ビットレート通信用ビデオ符号化方式
- (11) JT-H 264 オーディオビジュアルサービス全般のための高度ビデオ符号化方式
- (12) ISO/IEC 14496-2 MPEG-4 ビジュアル規格
- (13) JT-G 711 64kbit/s PCM (μ則)
- (14) JT-G 722 64kbit/s 以下の7kHz オーディオ符号化方式
- (15) JT-G 728 低遅延符号励振線形予測(LD-CELP)を用いた16kbit/s 音声符号化方式
- (16) JT-G 723.1 マルチメディア通信伝送のための 5.3及び6.3kbit/s
デュアルレート音声符号化方式
- (17) JT-G 729 マルチメディア通信伝送のための8kbit/s
デュアルレート音声符号化方式

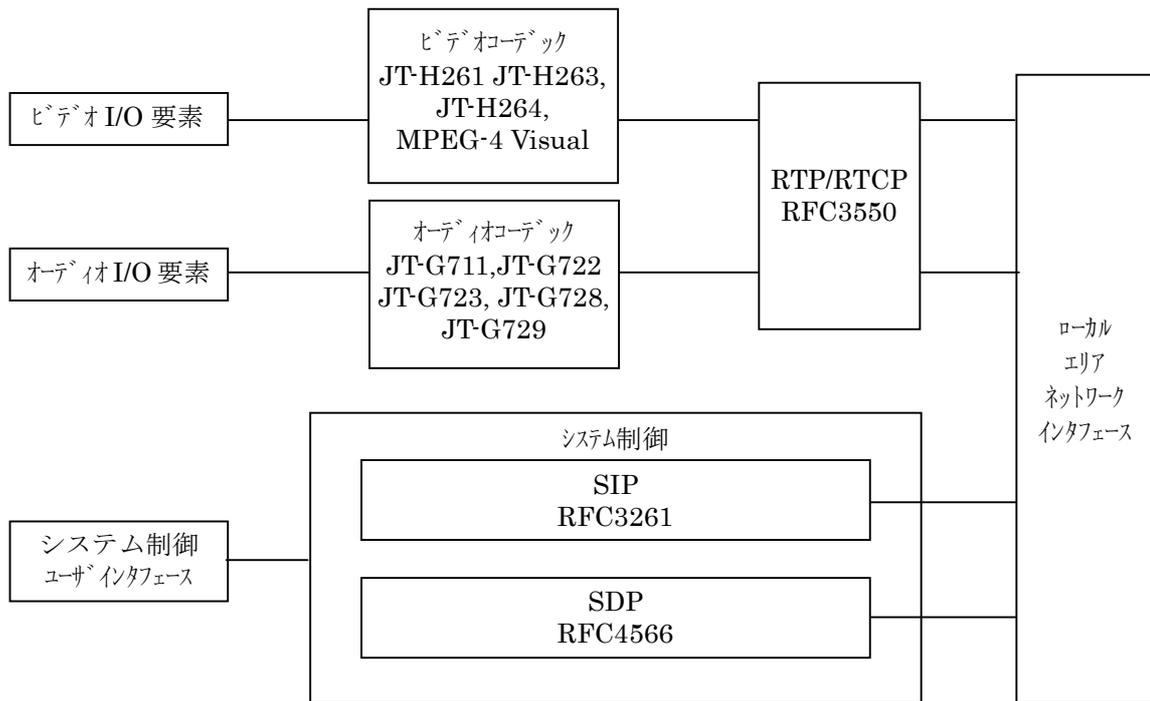


図 2. 1 SIP マルチメディア通信端末

2-2. 必須前提試験

本付加サービス試験を実施するにあたり、以下の実施要領に基づいた SIP 相互接続の基本試験に合格していることを必須とする。

「RFC3261 (SIP) に基づくマルチメディア通信システム 相互接続試験実施要領 一ステップ 1 ー 2003 年 7 月制定」 (HATS-M-102.1-V1.0)

3. 相互接続試験の実施方法

3-1. 試験環境

- (1) 本試験にあたっては、通常運用されるローカルエリアネットワークとは切り離れたプライベートな環境を使用することとする。
- (2) 試験 LAN には試験に供する構成要素を接続する。このとき、本試験に供されない別の複数の構成要素が同一の LAN 上に接続されていてもよいが、使用帯域などにお互いの影響が出ないように注意すること。
- (3) 各構成要素の設置場所が異なる場合は、各場所に連絡用の電話などを用意すること。
- (4) 上記以外の試験項目ごとの試験環境の詳細は第4章～第11章において規定する。

3-2. 実施方法

- (1) 予め申し合わせた期日に、本章で規定する手順により実施する。
- (2) 接続の組み合わせは参加各社総当りとする。

本試験参加申込時の参加確認リストに基づき試験事務局により作成された試験マトリクスを参照の上、試験可能な両社で実施項目を協議し試験実施手段を決定する。ただし、原則として自社機種間の相互接続試験は、参加社の責任において既に完了しているものとする。

- (3) 上記以外の試験項目ごとの実施方法の詳細は第4章～第11章において規定する。

3-3. 試験手順

本「実施要領」においては、8項目の SIP 付加サービス機能の試験手順を項目ごとに第4章～第11章において規定している。

なお、試験項目は必要に応じて追加・改版するものとする。

注) 試験項目によっては、限られた時間内で実施しなければならない試験シナリオが数多くあるので、試験中に不具合が見つかった場合には、できるだけ試験シナリオをこなすように進めるものとする。不具合を直さないと先のいずれの試験シナリオにも進めない場合は、未実施とするか、できるだけ速やかに対策を施し試験を試みるかを判断するものとする。

3-4. 試験項目

第4章～第11章において試験方法が規定される付加サービス機能試験の項目は以下の通りである。

- (1) 電話のサービス機能試験
 - 1) 第4章 発信番号通知
オプション試験
 - ・発信番号非通知
 - 2) 第5章 セッションタイム(注1)
 - 3) 第6章 100rel(注2)
 - 4) 第7章 保留転送
 - ・保留・保留応答
 - ・保留転送オプション試験
 - ・保留・保留応答(被保留端末切断時の動作準正常)
 - ・保留・保留応答(INVITEによるセッションタイムとの複合)
 - ・保留転送(転送先がビジー時の動作)
 - ・条件転送(無条件転送)
 - 5) 第8章 音声コーデック追加
- (2) 準正常試験
 - 6) 第9章 キャンセル(発信呼の途中放棄)
 - 7) 第10章 リジェクト・ビジー(着信拒否・話中応答)
- (3) 異常系試験
 - 8) 第11章 ストレス試験(ケーブル抜去)
オプション試験
 - ・ストレス試験(対向装置電源断/アプリケーション強制終了)

(注1) セッションの継続を一定時間ごとに確認して更新する SIP の拡張オプション機能。

(注2) RFC3262 で規定される暫定応答を用いてメッセージの到達確認を行う SIP の拡張オプション機能。

3-5. 試験の結果判定

試験終了後は、各社で相手先との試験結果を別紙1の SIP 付加サービス機能試験結果一覧に記入して 2 社間での試験結果をとりまとめる。各試験での詳細結果は試験結果一覧の備考欄に記載される試験項目ごとのチェックシートに、発信側及び着信側双方で結果を確認の上、記入して各試験結果の判定を行う。そのチェックシートを各試験マトリクスで規定された端末側が記入して試験事務局に提出する。

(別紙の各種チェックシートは、試験参加社へ電子データ形式で試験事務局より試験前に送付します。)

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況(現象・原因・処置など)を各試験のチェックシートに記入することが望ましい。

なお、試験の再実施を希望する場合には、その旨を各チェックシートの MEMO 欄に記入する。

各試験項目と、試験の合格条件の対応は表3.1に従う。

表3.1 SIP付加サービス機能試験の合格条件

		試験の合格条件(※1)					
		①	②	③	④	⑤	⑥
(1) 電話のサービス機能試験							
第4章	発信番号通知	○					
第5章	セッションタイム		○				
第6章	100rel			○			
第7章	保留転送						
7-2.1	保留・保留応答				○		
7-2.2	保留転送					○	
第8章	音声コーデック追加						○
(2) 準正常試験		試験の合格条件(※2)					
第9章	キャンセル(発信呼の途中放棄)	○					
第10章	リジェクト・ビジー(着信拒否・話中応答)	○					
(3) 異常系試験		試験の合格条件(※3)					
第11章	ストレス試験(ケーブル抜去)	○					

表3.1の見方は以下の通り。

(※1)

- 1) 電話のサービス機能試験①の合格条件は、第4章の発信番号通知機能試験に合格すること。
 - 2) 電話のサービス機能試験②の合格条件は、第5章のセッションタイム試験に合格すること。
 - 3) 電話のサービス機能試験③の合格条件は、第6章の100rel試験に合格すること。
 - 4) 電話のサービス機能試験④の合格条件は、第7章2.1節の保留・保留応答の試験に合格すること。
 - 5) 電話のサービス機能試験⑤の合格条件は、第7章2.4節の保留転送の試験に合格すること。
 - 6) 電話のサービス機能試験⑥の合格条件は、第8章の音声コーデック追加の試験に合格すること。
- 各試験項目はそれぞれ個別に合否判定を実施する。

(※2)

準正常試験の合格条件は、2種類の試験すべてに合格すること。

(※3)

異常系試験の合格条件は、1種類の試験すべてに合格すること。

3-6. オプション試験項目(参考)

お互いが能力を有していることが判明している端末間においては、より高度な接続性の試験を行うことが望ましい。

オプション試験の正式な実施については、今後の端末能力の向上と密接に関係することにより、要望が出た時点で検討するものとする。

4. 発信番号通知 試験方法

4-1. 試験条件

VoIP 機器間の相互接続において、発信者側のエンドポイントまたはゲートウェイから付与される発信者番号が、着信側エンドポイントまたはゲートウェイ装置に伝達できることを確認する。

- (1) 呼制御プロトコルとして SIP を採用している。
- (2) RFC3261 に準拠し、INVITE メッセージ内の From ヘッダ部の情報、display-name 情報やユーザパート部分の情報を利用する。利用される情報についてはその種別は問わない。
- (3) 試験環境は以下の構成とする。

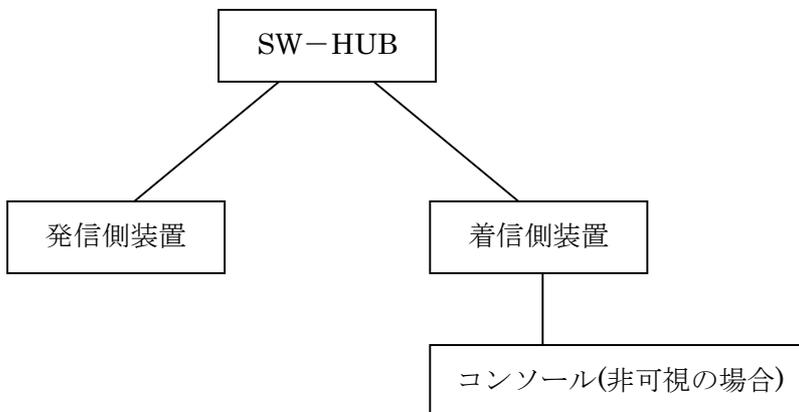


図 4. 1 試験環境

4-2. 試験手順

(1) 事前の仕様確認

各装置において以下の仕様を明確にする。

- a. 発信者番号として使用可能な数字の範囲が 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9 を機器の仕様上網羅する。
- b. 機器の仕様上、発信者番号として扱い可能な桁数を確認する。(最小～最大桁数の確認)
最大桁数は基本的には 11 桁以上サポートすること。
なお、発信者番号の送信のみをサポートし、発信者番号のいかなる受信機能も無い装置については、本機能なしと分類する。
- c. 着信側において発信者番号を確認するための機能を確認する。

Type1 : LCD 等による可視表示機能あり。

発信者番号の表示が呼の着信中に表示せず、応答以降にのみ表示する場合は Type2 とする。

Type2 : Type1 の機能を持たない装置。通信ログ蓄積・出力、機器内部のモニタ等の話履歴機能。

注) 着信側装置において、発信者番号の有無、及びその内容を認知せず呼の着信のみを受け付ける場合であれば、発信者番号の受信機能無しとする。

(2) 発信者番号の付与

各発信側装置には以下の要領に従い番号を付与する。これは試験事務局にて試験マトリクスで割り当てる。

- d. 各相互試験装置/メーカーを識別するための番号を発信者番号の先頭桁に割り当てる。
- e. dに続いてdに含まれない数字を含んだ番号列を付与し、dを含み自装置の番号(発ID)とする。

例) d=2233とした場合

e=1234567890として、

自装置番号を2233 1234567890 (14桁)とする。

もしくは、

e=14567890として

自装置番号を2233 14567890 (12桁)とする。

一方、桁数制限等によって上記では桁数をオーバーする場合は、下記のように複数の試験を分割して実施してもよい。

No1. a=2233 b=1234567 自装置番号を2233 1234567 (11桁)とし、

No2. a=2233 b=8901234 自装置番号を2233 8901234 (11桁)とする。

(3) 発信番号通知試験

f. 発信側装置より着信側装置に対して呼の発信を実施する。

g. 着信側装置 Typeにより、

Type1: 着信中・または当該着信呼に応答後にLCD等の可視表示部に発信者番号が正しく表示され、当該着信呼に対して応答通話可能であることを確認する。

Type2: 当該着信呼の存在をリンガー鳴動等の手段で認識し、その呼に応答可能であること。また、装置内の通話履歴機能等によって当該呼の発信者番号情報が蓄積または出力されること。着信履歴等の出力がリアルタイムであるか否か、その履歴等の保持時間は問わない。

(4) 発着信を逆にして(3)を実施する。

4-3. 合否判定

試験手順の動作が確認でき、発信番号通知に関して問題がないことを各機器ともに確認できた場合に合格とする。

4-4. 試験結果の記入

試験マトリクスで規定された端末側が別紙2のチェックシートに試験結果を記入する。

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況(現象・原因・処置など)をチェックシートに記入することが望ましい。

4-5. オプション試験（参考）

両社間で調整が取れ、時間がある場合などには以下のオプション試験を実施していても良い。

4-5.1 発信番号非通知

着信時には発信者番号表示機能があり、発信時にはオペレータの操作で発信者番号を通知しない機能を有する装置を対象としたオプション試験。

非通知に関するプロトコルや非通知発信時に使用するヘッダ等、または着信時に参照するヘッダ等の仕様を互いに明らかにして試験を行うこととし、

発信側装置で発信者番号を通知しない操作(例:184+相手番号)を行い発信し、着信側装置で着信時にコンソール等の発信者番号表示部にて発信者番号が表示されないことを確認する。

5. セッションタイム 試験方法

5-1. 試験条件

- (1) 呼制御プロトコルとして SIP を採用している。
- (2) UPDATE によるセッションタイム機能 または INVITE によるセッションタイム機能を有する。
- (3) Allow ヘッダや Require ヘッダ、Supported ヘッダにおいて、セッションタイム機能が有効に動作するようにお互いに設定する。
- (4) 試験環境は以下に示す端末間接続、またはサーバ経由の構成とする。

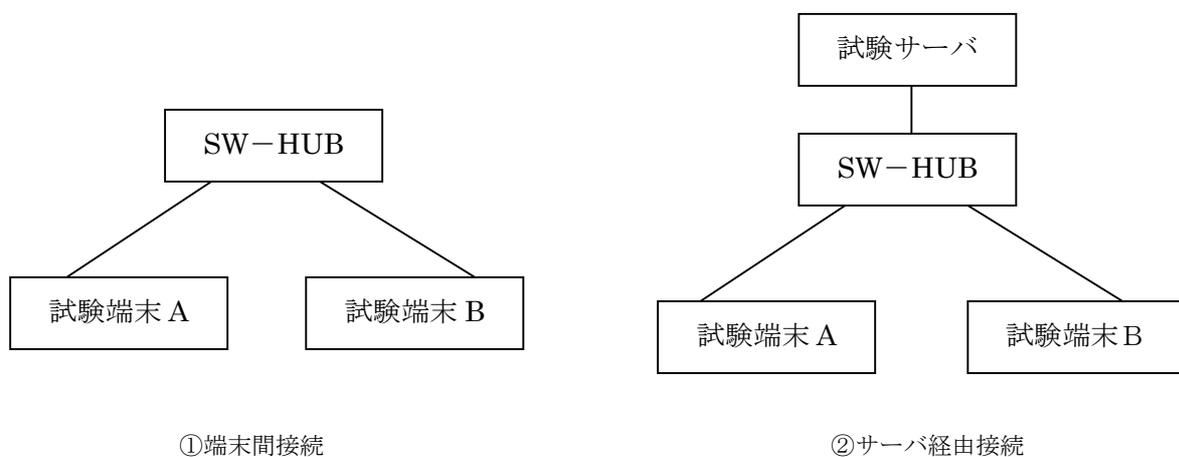


図 5. 1 試験環境

5-2. 試験手順

- (1) セッションタイム値と UPDATE/INVITE メソッドの設定を話し合っ決めて。セッションタイムは試験を円滑に進めるためになるべく短い方が良いが、RFC での最小推奨値が 90 秒であるので、それを基本とする。ただし、お互いにそれ以下の秒数でも動作する場合は小さい値で行っても良い。90 秒より大きな値しか設定できない場合はその値で試験を行う。
- (2) 端末 A から発信し端末 B で着信する。
- (3) 端末 B で着信に応答する。
- (4) 設定したセッションタイム値以上の時間の通話が可能なことを確認する。たとえばセッションタイム値を 90 秒と設定した場合には 135 秒以上 (1.5 倍) の通話を確認する。
- (5) 端末 A から切断する。
- (6) 端末 A、端末 B とも正常に元の状態 (発着信できる初期状態) になることを確認する。
- (7) 発信側で refresher を設定等で変更可能であれば、refresher を変更して同様に確認する。refresher 設定なし、refresher=uac、refresher=uas、それぞれ設定が可能なものについて(2)―(6)を繰り返して確認する。
- (8) UPDATE/INVITE の両方に対応していて、設定により変更が可能であれば、セッションタイムに使用する

メソッドを変えて同様に(2)―(7)を繰り返して確認する。

(9) 端末 A、端末 B の発着信を逆にして同様に(2)―(8)を繰り返して確認する。

5-3. 合否判定

試験手順の動作が確認でき、セッションタイムに関して問題がないことを各機器ともに確認できた場合に合格とする。

5-4. 試験結果の記入

試験マトリクスで規定された端末側が別紙 3 のチェックシートに試験結果を記入する。

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況（現象・原因・処置など）をチェックシートに記入することが望ましい。

6. 100rel 試験方法

6-1. 試験条件

- (1) 呼制御プロトコルとして SIP を採用している。
- (2) RFC3262 に準拠した機能を有する。
- (3) 試験環境は以下に示す端末間接続、またはサーバ経由の構成とする。

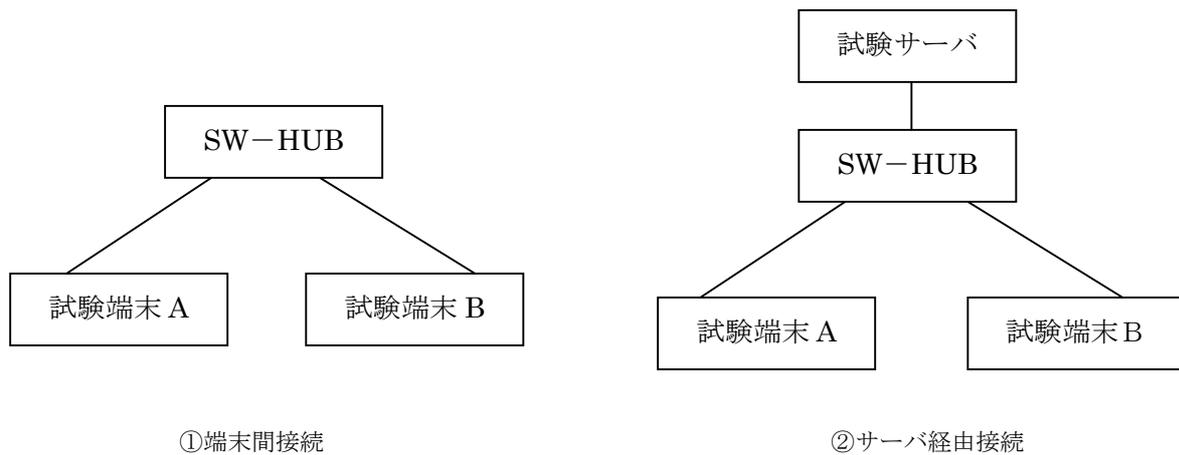


図 6. 1 試験環境

6-2. 試験手順

- (1) 端末 A から発信し端末 B で着信する。
- (2) 端末 B で呼び出し音等も必要があれば確認する。
- (3) 端末 B で着信応答をせず、端末 A からキャンセル（発信途中放棄）を行う。
- (4) 端末 A、端末 B とも正常に元の状態(発着信できる初期状態)に戻ることを確認する。
- (5) 端末 A、端末 B の発着信を逆にして同様に(1)―(4)を繰り返して確認する。

6-3. 合否判定

試験手順の動作が確認でき、100rel に関して問題がないことを各機器ともに確認できた場合に合格とする。

6-4. 試験結果の記入

試験マトリクスで規定された端末側が別紙 4 のチェックシートに試験結果を記入する。

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況（現象・原因・処置など）をチェックシートに記入することが望ましい。

7-2. 試験手順

7-2.1 保留・保留応答

- ・ 別紙5-1のチェックシートを使用する。

【シナリオ1】 発A、着B、A保留/A保留応答、A切

- (1) 端末Aから端末Bへ発信する。
- (2) 端末Bが応答し端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aが端末Bを保留する。
- (4) 端末Aの声が端末Bへ、端末Bの声が端末Aへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Aが端末Bの保留を解除（保留応答）する。
- (6) 通話状態が復元したことを確認する。
- (7) 端末Aが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ2】 発A、着B、A保留/A保留応答、B切

- (1) ~ (6) シナリオ1の(1) ~ (6)を実施する。
- (7) 端末Bが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ3】 発A、着B、B保留/B保留応答、A切

- (1) 端末Aから端末Bへ発信する。
- (2) 端末Bが応答し端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Bが端末Aを保留する。
- (4) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Bが端末Aの保留を解除（保留応答）する。
- (6) 通話状態が復元したことを確認する。
- (7) 端末Aが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ4】 発A、着B、B保留/B保留応答、B切

- (1) ~ (6) シナリオ3の(1) ~ (6)を実施する。
- (7) 端末Bが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ5】 発B、着A、B保留/B保留応答、B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。
- (2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Bが端末Aを保留する。
- (4) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。

- (5) 端末 B が端末 A の保留を解除（保留応答）する。
- (6) 通話状態が復元したことを確認する。
- (7) 端末 B が切断し、端末 B および端末 A が空きになることを確認する。

【シナリオ 6】 発 B、着 A、B 保留／B 保留応答、A 切

- (1) ～ (6) シナリオ 5 の (1) ～ (6) を実施する。
- (2) 端末 A が切断し、端末 B および端末 A が空きになることを確認する。

【シナリオ 7】 発 B、着 A、A 保留／A 保留応答、B 切

- (1) 端末 B から端末 A へ発信する。
- (2) 端末 A が応答し端末 B と端末 A が通話状態であることを確認する。
- (3) 端末 A が端末 B を保留する。
- (4) 端末 A の声が端末 B へ、端末 B の声が端末 A へ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末 A が端末 B の保留を解除（保留応答）する。
- (6) 通話状態が復元したことを確認する。
- (7) 端末 B が切断し、端末 B および端末 A が空きになることを確認する。

【シナリオ 8】 発 B、着 A、A 保留／A 保留応答、A 切

- (1) シナリオ 7 の (1) ～ (5) を実施する。
- (2) 端末 A が切断し、端末 B および端末 A が空きになることを確認する。

7-2.2 保留転送

・ 別紙 5-2（基本パターン 1）、5-2（基本パターン 2）の 2 つのチェックシートを使用する。
なお、以下のシナリオでは、Attended Transfer（セカンダリコールありの転送）の場合を想定して記載しているが、Unattended Transfer（セカンダリコールがない転送）の場合でも基本的には同様のシナリオで実施すれば良い。

【シナリオ 1】 発 A、着 B、（A：転送者、B：被転送）、C へ転送完了後、B 切

- (1) 端末 A から端末 B へ発信する。
- (2) 端末 B が応答し端末 A と端末 B が通話状態であることを確認する。
- (3) 端末 A が端末 B を保留する。
- (4) 端末 A の声が端末 B へ、端末 B の声が端末 A へ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末 A が端末 C へ発信する。
- (6) 端末 C が応答し端末 A と端末 C が通話状態であることを確認する。…【省略可※1】
- (7) 端末 A が特定の操作（受話器を置く・指定のキーを押下するなど、操作は機器依存）をする

ことにより、端末Bと端末Cが通話状態となることを確認する。

(8) 端末Aが切断し、端末Bと端末Cの通話に関係なく空きになることを確認する。

(9) 端末Bが切断し、端末Bおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ2】 発A、着B、(A:転送者、B:被転送)、Cへ転送完了後、C切

(1) ~ (8) シナリオ1の(1) ~ (8)を実施する。

(9) 端末Cが切断し、端末Bおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ3】 発A、着B、(A:被転送、B:転送者)、Cへ転送完了後、A切

(1) 端末Aから端末Bへ発信する。

(2) 端末Bが応答し端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。

(3) 端末Bが端末Aを保留する。

(4) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。

(5) 端末Bが端末Cへ発信する。

(6) 端末Cが応答し端末Bと端末Cが通話状態であることを確認する。…【省略可※1】

(7) 端末Bが特定の操作(受話器を置く・指定のキーを押下するなど、操作は機器依存)をすることにより、端末Aと端末Cが通話状態となることを確認する。

(8) 端末Bが切断し、端末Aと端末Cの通話に関係なく空きになることを確認する。

(9) 端末Aが切断し、端末Aおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ4】 発A、着B、(A:被転送、B:転送者)、Cへ転送完了後、C切

(1) ~ (8) シナリオ3の(1) ~ (8)を実施する。

(9) 端末Cが切断し、端末Aおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ5】 発B、着A、(B:転送者、A:被転送)、Cへ転送完了後、A切

(1) 端末Bから端末Aへ発信する。

(2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。

(3) 端末Bが端末Aを保留する。

(4) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。

(5) 端末Bが端末Cへ発信する。

(6) 端末Cが応答し端末Bと端末Cが通話状態であることを確認する。…【省略可※2】

(7) 端末Bが特定の操作(受話器を置く・指定のキーを押下するなど、操作は機器依存)をすることにより、端末Aと端末Cが通話状態となることを確認する。

(8) 端末Bが切断し、端末Aと端末Cの通話に関係なく空きになることを確認する。

(9) 端末Aが切断し、端末Aおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ6】 発B、着A、(B：転送者、A：被転送)、Cへ転送完了後、C切

- (1) シナリオ5の(1)～(8)を実施する。
- (9) 端末Cが切断し、端末Aおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ7】 発B、着A、(B：被転送、A：転送者)、Cへ転送完了後、B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。
- (2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aが端末Bを保留する。
- (4) 端末Aの声が端末Bへ、端末Bの声が端末Aへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Aが端末Cへ発信する。
- (6) 端末Cが応答し端末Aと端末Cが通話状態であることを確認する。…【省略可※2】
- (7) 端末Aが特定の操作(受話器を置く・指定のキーを押下するなど、操作は機器依存)をすることにより、端末Bと端末Cが通話状態となることを確認する。
- (8) 端末Aが切断し、端末Bと端末Cの通話に関係なく空きになることを確認する。
- (9) 端末Bが切断し、端末Bおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ8】 発B、着A、(B：被転送、A：転送者)、Cへ転送完了後、C切

- (1)～(8) シナリオ7の(1)～(8)を実施する。
- (2) 端末Cが切断し、端末Bおよび端末Cが空きになることを確認する。

【省略可※1】 端末AがUnattended Transfer(セカンダリコールがない転送)動作の場合、端末Cが応答後すぐに端末Bと端末Cが通話状態になるため省略可。省略時はチェックシートのMEMO欄にその旨を記載する。

【省略可※2】 端末BがUnattended Transfer(セカンダリコールがない転送)動作の場合、端末Cが応答後すぐに端末Aと端末Cが通話状態になるため省略可。省略時はチェックシートのMEMO欄にその旨を記載する。

7-3. 合否判定

試験手順におけるすべてのシナリオの動作が確認でき、保留・保留応答や保留転送に関して問題がないことを各機器ともに確認できた場合に、当該試験項目を合格とする。

7-4. 試験結果の記入

試験マトリクスで規定された端末側が、実施した各試験項目に対応した別紙5-1～別紙5-2(2)に試験結果を記入する。

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況(現象・原因・処置など)をチェックシートに記入することが望ましい。

7-5. オプション試験（参考）

7-5. 1 保留・保留応答（被保留端末切断時の動作）・・・【オプション試験】

両社間で調整が取れ、時間がある場合などには以下のオプション試験を実施していても良い。

- ・ 保留後、被保留端末が切断した場合、両者が正常に空きに戻ることを確認する)
- ・ 別紙5-3のチェックシートを使用する。

【シナリオ1】 発A、着B、A保留後B切

- (1) 端末Aから端末Bへ発信する。
- (2) 端末Bが応答し端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aが端末Bを保留する。
- (4) 端末Aの声が端末Bへ、端末Bの声が端末Aへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Bが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ2】 発A、着B、B保留後A切

- (1) 端末Aから端末Bへ発信する。
- (2) 端末Bが応答し端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Bが端末Aを保留する。
- (4) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Aが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ3】 発B、着A、B保留後A切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。
- (2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Bが端末Aを保留する。
- (4) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Aが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ4】 発B、着A、A保留後B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。
- (2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aが端末Bを保留する。
- (4) 端末Aの声が端末Bへ、端末Bの声が端末Aへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Bが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

7-5. 2 保留・保留応答（INVITEによるセッションタイムとの複合）…【オプション試験】

両社間で調整が取れ、時間がある場合などには以下のオプション試験を実施していても良い。

- ・ 通話確立後、INVITEによるセッションタイム・リフレッシュ・シーケンスが働いたとしても、誤って保留／保留応答制御とならないことを確認する。なお、Session-Expires 時間は 90 秒とし、リフレッシュ期間は 45 秒とする。（UPDATEによるセッションタイム・リフレッシュは本書の範囲外とする。）
- ・ 別紙 5-4 のチェックシートを使用する。

【シナリオ 1】 発 A、着 B、A リフレッシュ、A 保留／A 保留応答、A 切

- (1) 端末 A から端末 B へ発信する。（リフレッシュは端末 A でネゴシエーションする）
- (2) 端末 B が応答し端末 A と端末 B が通話状態であることを確認する。
- (3) 端末 A からのリフレッシュ発行（端末 B が保留されないことを確認する）。
- (4) 端末 A が端末 B を保留する。
- (5) 端末 A の声が端末 B へ、端末 B の声が端末 A へ、それぞれ通らないことを確認する。
- (6) 端末 A からのリフレッシュ発行（端末 B が保留解除されないことを確認する）。
- (7) 端末 A が端末 B の保留を解除（保留応答）する。
- (8) 通話状態が復元したことを確認する。
- (9) 端末 A からのリフレッシュ発行（端末 B が保留されないことを確認する）。…【省略可※3】
- (10) 端末 A が切断し、端末 A および端末 B が空きになることを確認する。

【シナリオ 2】 発 A、着 B、A リフレッシュ、A 保留／A 保留応答、B 切…【省略可※4】

- (1) ～ (9) シナリオ 1 の (1) ～ (9) を実施する。
- (10) 端末 B が切断し、端末 A および端末 B が空きになることを確認する。

【シナリオ 3】 発 A、着 B、B リフレッシュ、A 保留／A 保留応答、A 切

- (1) 端末 A から端末 B へ発信する。（リフレッシュは端末 B でネゴシエーションする）
- (2) 端末 B が応答し端末 A と端末 B が通話状態であることを確認する。
- (3) 端末 B からのリフレッシュ発行（端末 A が保留されないことを確認する）。
- (4) 端末 A が端末 B を保留する。
- (5) 端末 A の声が端末 B へ、端末 B の声が端末 A へ、それぞれ通らないことを確認する。
- (6) 端末 B からのリフレッシュ発行（端末 A が保留解除されないことを確認する）。
- (7) 端末 A が端末 B の保留を解除（保留応答）する。
- (8) 通話状態が復元したことを確認する。
- (9) 端末 B からのリフレッシュ発行（端末 A が保留されないことを確認する）。…【省略可※3】
- (10) 端末 A が切断し、端末 A および端末 B が空きになることを確認する。

【シナリオ4】 発A、着B、Bリフレッシュ、A保留/A保留応答、B切…【省略可※4】

- (1) ～ (9) シナリオ3の(1)～(9)を実施する。
- (10) 端末Bが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ5】 発A、着B、Aリフレッシュ、B保留/B保留応答、A切

- (1) 端末Aから端末Bへ発信する。(リフレッシュは端末Aでネゴシエーションする)
- (2) 端末Bが応答し端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aからのリフレッシュ発行(端末Bが保留されないことを確認する)。
- (4) 端末Bが端末Aを保留する。
- (5) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (6) 端末Aからのリフレッシュ発行(端末Bが保留解除されないことを確認する)。
- (7) 端末Bが端末Aの保留を解除(保留応答)する。
- (8) 通話状態が復元したことを確認する。
- (9) 端末Aからのリフレッシュ発行(端末Bが保留されないことを確認する)。…【省略可※3】
- (10) 端末Aが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ6】 発A、着B、Aリフレッシュ、B保留/B保留応答、B切…【省略可※4】

- (1) ～ (9) シナリオ5の(1)～(9)を実施する。
- (10) 端末Bが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ7】 発A、着B、Bリフレッシュ、B保留/B保留応答、A切

- (1) 端末Aから端末Bへ発信する。(リフレッシュは端末Bでネゴシエーションする)
- (2) 端末Bが応答し端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Bからのリフレッシュ発行(端末Aが保留されないことを確認する)。
- (4) 端末Bが端末Aを保留する。
- (5) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (6) 端末Bからのリフレッシュ発行(端末Aが保留解除されないことを確認する)。
- (7) 端末Bが端末Aの保留を解除(保留応答)する。
- (8) 通話状態が復元したことを確認する。
- (9) 端末Bからのリフレッシュ発行(端末Aが保留されないことを確認する)。…【省略可※3】
- (10) 端末Aが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ8】 発A、着B、Bリフレッシュ、B保留/B保留応答、B切…【省略可※4】

- (1) ～ (9) シナリオ7の(1)～(9)を実施する。
- (10) 端末Bが切断し、端末Aおよび端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ 9】 発B、着A、Bリフレッシュ、B保留/B保留応答、B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。(リフレッシュは端末Bでネゴシエーションする)
- (2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Bからのリフレッシュ発行(端末Aが保留されないことを確認する)。
- (4) 端末Bが端末Aを保留する。
- (5) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (6) 端末Bからのリフレッシュ発行(端末Aが保留解除されないことを確認する)。
- (7) 端末Bが端末Aの保留を解除(保留応答)する。
- (8) 通話状態が復元したことを確認する。
- (9) 端末Bからのリフレッシュ発行(端末Aが保留されないことを確認する)。…【省略可※3】
- (10) 端末Bが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ 10】 発B、着A、Bリフレッシュ、B保留/B保留応答、B切…【省略可※4】

- (1) ~ (9) シナリオ9の(1) ~ (9)を実施する。
- (10) 端末Aが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ 11】 発B、着A、Aリフレッシュ、B保留/B保留応答、B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。(リフレッシュは端末Aでネゴシエーションする)
- (2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aからのリフレッシュ発行(端末Bが保留されないことを確認する)。
- (4) 端末Bが端末Aを保留する。
- (5) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (6) 端末Aからのリフレッシュ発行(端末Bが保留解除されないことを確認する)。
- (7) 端末Bが端末Aの保留を解除(保留応答)する。
- (8) 通話状態が復元したことを確認する。
- (9) 端末Aからのリフレッシュ発行(端末Bが保留されないことを確認する)。…【省略可※3】
- (10) 端末Bが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ 12】 発B、着A、Aリフレッシュ、B保留/B保留応答、A切…【省略可※4】

- (1) ~ (9) シナリオ11の(1) ~ (9)を実施する。
- (10) 端末Aが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ 13】 発B、着A、Bリフレッシュ、A保留/A保留応答、B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。(リフレッシュは端末Bでネゴシエーションする)
- (2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。

- (3) 端末Bからのリフレッシュ発行（端末Aが保留されないことを確認する）。
- (4) 端末Aが端末Bを保留する。
- (5) 端末Aの声が端末Bへ、端末Bの声が端末Aへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (6) 端末Bからのリフレッシュ発行（端末Aが保留解除されないことを確認する）。
- (7) 端末Aが端末Bの保留を解除（保留応答）する。
- (8) 通話状態が復元したことを確認する。
- (9) 端末Bからのリフレッシュ発行（端末Aが保留されないことを確認する）。…【省略可※3】
- (10) 端末Bが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ14】 発B、着A、Bリフレッシュ、A保留/A保留応答、A切…【省略可※4】

- (1) ~ (9) シナリオ13の(1) ~ (9)を実施する。
- (10) 端末Aが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ15】 発B、着A、Aリフレッシュ、A保留/A保留応答、B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。（リフレッシュは端末Aでネゴシエーションする）
- (2) 端末Aが応答し端末Bと端末Aが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aからのリフレッシュ発行（端末Bが保留されないことを確認する）。
- (4) 端末Aが端末Bを保留する。
- (5) 端末Aの声が端末Bへ、端末Bの声が端末Aへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (6) 端末Aからのリフレッシュ発行（端末Bが保留解除されないことを確認する）。
- (7) 端末Aが端末Bの保留を解除（保留応答）する。
- (8) 通話状態が復元したことを確認する。
- (9) 端末Aからのリフレッシュ発行（端末Bが保留されないことを確認する）。…【省略可※3】
- (10) 端末Bが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する

【シナリオ16】 発B、着A、Aリフレッシュ、A保留/A保留応答、A切…【省略可※4】

- (1) ~ (9) シナリオ15の(1) ~ (9)を実施する。
- (10) 端末Aが切断し、端末Bおよび端末Aが空きになることを確認する。

【省略可※3】 (9)の確認項目は(3)での確認内容と同一のため省略可とする。

省略時はチェックシートの備考欄『□(9)省略可』にチェックする。

【省略可※4】 前シナリオと切断側端末が異なるのみのため省略可とする。

省略時はチェックシートの備考欄『□省略可』にチェックする。

7-5.3 保留転送（転送先がビジー時の動作）・・・【オプション試験】

両社間で調整が取れ、時間がある場合などには以下のオプション試験を実施していても良い。

- ・ 転送先がビジーの場合に、転送者と被転送の通話に戻ることを確認。
- ・ 別紙5-5のチェックシートを使用する。

【シナリオ1】 発A、着B、（A：転送者、B：被転送）、転送先Cビジー、AB通話戻る、A切

- (1) 端末Aから端末Bへ発信する。
- (2) 端末Bが応答し、端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aが端末Bを保留する。
- (4) 端末Aの声が端末Bへ、端末Bの声が端末Aへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Cをビジー状態にする。
- (6) 端末Aから端末Cへ発信する。
- (7) 端末Aは端末Cがビジーであることを確認する。
- (8) 端末Aは端末Bの保留を解除し、端末Bとの通話に戻ることを確認する。
- (9) 端末Aが切断し、端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ2】 発A、着B、（A：転送者、B：被転送）、転送先Cビジー、AB通話戻る、B切

- (1)～(8) シナリオ1の(1)～(8)を実施する。
- (9) 端末Bが切断し、端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ3】 発A、着B、（A：被転送、B：転送者）、転送先Cビジー、AB通話戻る、A切

- (1) 端末Aから端末Bへ発信する。
- (2) 端末Bが応答し、端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Bが端末Aを保留する。
- (4) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Cをビジー状態にする。
- (6) 端末Bから端末Cへ発信する。
- (7) 端末Bは端末Cがビジーであることを確認する。
- (8) 端末Bは端末Aの保留を解除し、端末Aとの通話に戻ることを確認する。
- (9) 端末Aが切断し、端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ4】 発A、着B、（A：被転送、B：転送者）、転送先Cビジー、AB通話戻る、B切

- (1)～(8) シナリオ3の(1)～(8)を実施する。
- (9) 端末Bが切断し、端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ5】 発B、着A、(B：転送者、A：被転送)、転送先Cビジー、AB通話戻る、B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。
- (2) 端末Aが応答し、端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Bが端末Aを保留する。
- (4) 端末Bの声が端末Aへ、端末Aの声が端末Bへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Cをビジー状態にする。
- (6) 端末Bから端末Cへ発信する。
- (7) 端末Bは端末Cがビジーであることを確認する。
- (8) 端末Bは端末Aの保留を解除し、端末Aとの通話に戻ることを確認する。
- (9) 端末Bが切断し、端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ6】 発B、着A、(B：転送者、A：被転送)、転送先Cビジー、AB通話戻る、A切

- (1) ～ (8) シナリオ5の(1)～(8)を実施する。
- (9) 端末Aが切断し、端末Bが空きになることを確認する。

【シナリオ7】 発B、着A、(B：被転送、A：転送者)、転送先Cビジー、AB通話戻る、B切

- (1) 端末Bから端末Aへ発信する。
- (2) 端末Aが応答し端末Aと端末Bが通話状態であることを確認する。
- (3) 端末Aが端末Bを保留する。
- (4) 端末Aの声が端末Bへ、端末Bの声が端末Aへ、それぞれ通らないことを確認する。
- (5) 端末Cをビジー状態にする。
- (6) 端末Aから端末Cへ発信する。
- (7) 端末Aは端末Cがビジーであることを確認する。
- (8) 端末Aは端末Bの保留を解除し、端末Bとの通話に戻ることを確認する。
- (9) 端末Bが切断し、端末Aが空きになることを確認する。

【シナリオ8】 発B、着A、(B：被転送、A：転送者)、転送先Cビジー、AB通話戻る、A切

- (1) ～ (8) シナリオ7の(1)～(8)を実施する。
- (9) 端末Aが切断し、端末Bが空きになることを確認する。

7-5. 4 条件転送(無条件転送)・・・【オプション試験】

両社間で調整が取れ、時間がある場合などには以下のオプション試験を実施していても良い。

- ・ 別紙5-6のチェックシートを使用する。

【シナリオ1】

- (1) 着信時、無条件で着信呼が転送されるよう、機器に対して、あらかじめ必要となる設定を施す。(設定方法、あるいは、設定内容は機器依存)
- (2) 端末Aが端末Bへ発信する。
- (3) 端末Bに着信せず端末Cに着信することを確認する。
- (4) 端末Cが応答し端末Aと端末Cが通話状態であることを確認する。
- (5) 端末Aが切断し、端末Aおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ2】

- (1) ~ (4) シナリオ1の(1) ~ (4)を実施する。
- (5) 端末Cが切断し、端末Aおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ3】

- (1) 着信時、無条件で着信呼が転送されるよう、機器に対して、あらかじめ必要となる設定を施す。(設定方法、あるいは、設定内容は機器依存)
- (2) 端末Bが端末Aへ発信する。
- (3) 端末Aに着信せず端末Cに着信することを確認する。
- (4) 端末Cが応答し端末Bと端末Cが通話状態であることを確認する。
- (5) 端末Bが切断し、端末Bおよび端末Cが空きになることを確認する。

【シナリオ4】

- (1) ~ (4) シナリオ3の(1) ~ (4)を実施する。
- (5) 端末Cが切断し、端末Bおよび端末Cが空きになることを確認する。

8. 音声コーデック追加 試験方法

8-1. 試験条件

(1) 試験環境は以下に示す端末間接続、またはサーバ経由の構成とする。

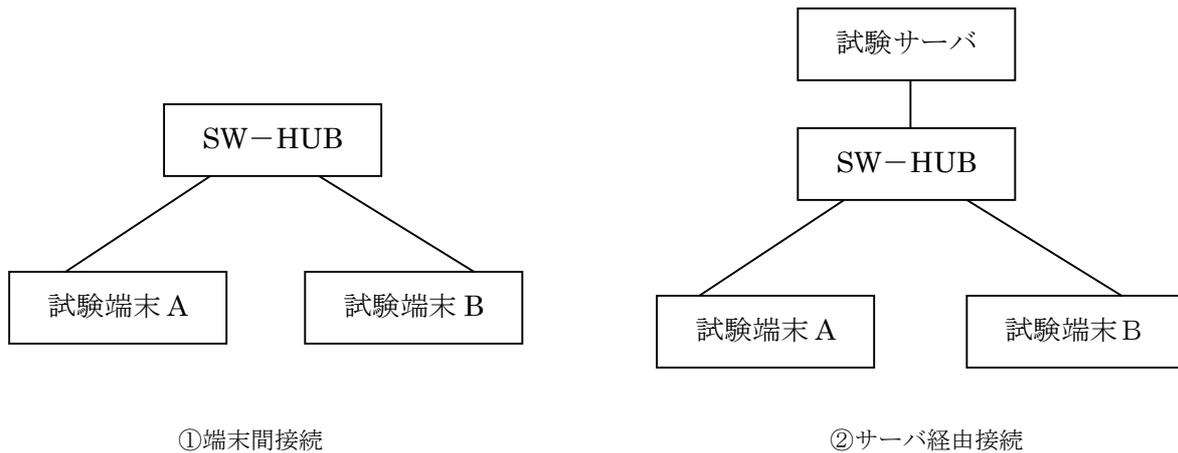


図 8. 1 試験環境

8-2. 試験手順

- (1) お互いの端末で使用可能な音声コーデックを確認し、試験する音声コーデックを決める。推奨する手順は、利用可能なすべての音声コーデックの情報を載せて発信し、着信側で決めた音声コーデックのみの情報に指定して、使用される音声コーデックを決めるやり方であるが、これができない場合は発信時に決めた音声コーデックのみを指定する手順で行っても良い。
- (2) 端末 A から発信し端末 B で着信する。
- (3) 端末 B で着信に応答し通話状態にする。
- (4) 端末 A、端末 B とも通話ができることを確認する。
- (5) 端末 B から切断する。
- (6) 端末 A、端末 B とも正常に元の状態（発着信できる初期状態）になることを確認する。
- (7) 端末 A、端末 B の発着信を逆にして同様に(2)–(6)を繰り返して確認する。

8-3. 合否判定

試験手順の動作が確認でき、音声コーデックに関して問題がないことを各機器ともに確認できた場合に合格とする。

8-4. 試験結果の記入

試験マトリクスで規定された端末側が別紙 6 のチェックシートに試験結果を記入する。備考欄にある符号化モード欄に使用した音声コーデックを記入する。

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況（現象・原因・処置など）をチェックシートに記入することが望ましい。

9. キャンセル（発信途中放棄） 試験方法

9-1. 試験条件

(1) 試験環境は以下に示す端末間接続、またはサーバ経由の構成とする。

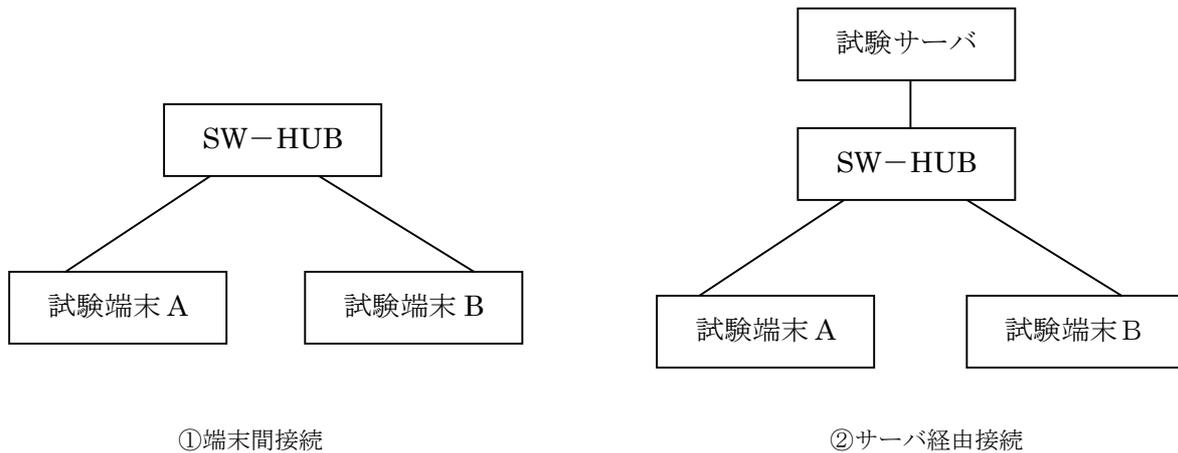


図 9. 1 試験環境

9-2. 試験手順

- (1) 端末 A から発信し端末 B で着信し呼出状態にする。
- (2) 端末 A がオンフックなどの動作によりキャンセル（発信途中放棄）をする。キャンセルする理由や方法は問わない。
- (3) 正常にキャンセルでき、端末 A、端末 B とも呼出状態が止まることを確認する。
- (4) 端末 A、端末 B とも正常に元の状態（発着信できる初期状態）に戻ることを確認する。
- (5) 端末 A、端末 B の発着信を逆にして同様に(1)–(4)を繰り返して確認する。

9-3. 合否判定

試験手順の動作が確認でき、キャンセル（発信途中放棄）に関して問題がないことを各機器ともに確認できた場合に合格とする。

9-4. 試験結果の記入

試験マトリクスで規定された端末側が別紙 7 のチェックシートに試験結果を記入する。

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況（現象・原因・処置など）をチェックシートに記入することが望ましい。

10. リジェクト・ビジー（着信拒否・話中応答） 試験方法

10-1. 試験条件

(1) 試験環境は以下に示す端末間接続、またはサーバ経由の構成とする。

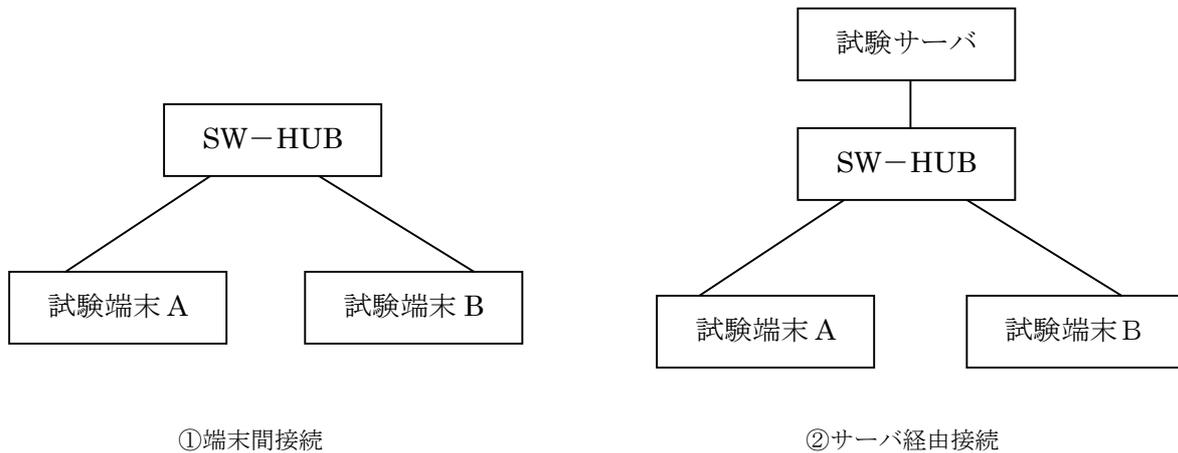


図10.1 試験環境

10-2. 試験手順

- (1) 端末 A から発信し端末 B で着信する。
- (2) 着信前にオフフックしておくなどして、着信処理時に端末 B がリジェクトをする。リジェクトする理由や方法は問わない。
- (3) 端末 A ではリジェクトされた通知がされることを確認する。
- (4) 端末 A、端末 B とも正常に元の状態（発着信できる初期状態）になることを確認する。
- (5) 端末 A、端末 B の発着信を逆にして同様に(1)―(4)を繰り返して確認する。

10-3. 合否判定

試験手順の動作が確認でき、リジェクト・ビジー（着信拒否・話中応答）に関して問題がないことを各機器ともに確認できた場合に合格とする。

10-4. 試験結果の記入

試験マトリクスで規定された端末側が別紙 8 のチェックシートに試験結果を記入する。

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況（現象・原因・処置など）をチェックシートに記入することが望ましい。

1 1. ストレス試験 試験方法

1 1-1. 試験条件の確認

(1) 異常時の切断方式を確認する。

- セッションタイマ
- 通話異常知覚によるオンフック (音声やUDP情報などの検知)
- 受信信号異常検知による自動切断 (セッション(SIP)やRTCPなどの情報の検知)
- その他 (何らかの方法: チェックシートのMEMO欄に記入)

(2) 試験環境は以下に示す構成とする。

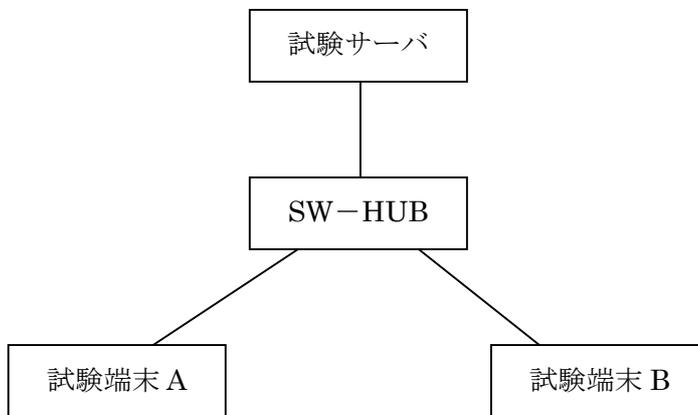


図 1 1. 1 試験環境

1 1-2. 試験手順

1 1-2. 1 通話中ケーブル抜去

- (1) 端末Aから発信し端末Bで着信し通話状態とする。
- (2) 端末Aの通信ケーブルを抜去する。端末A、端末Bを試験対象端末とする。
- (3) 端末Aは事前に確認した手順に従って端末Bとの呼を終了することを確認する。端末Bは事前に確認した手順に従って端末Aとの呼を終了することを確認する。
- (4) 端末A、端末Bは正常に元の状態(発着信できる初期状態)に戻ることを確認する。
- (5) 端末Aから発信し、端末Bの通信ケーブルを抜去して、同様に端末A、端末Bを確認する。
- (6) 端末Bから発信し、端末Aの通信ケーブルを抜去して、同様に端末A、端末Bを確認する。
- (7) 端末Bから発信し、端末Bの通信ケーブルを抜去して、同様に端末A、端末Bを確認する。

以下の2つのシナリオは試験実施時に他社に影響なく実施可能であれば行うものとする。できない場合は行わなくても良い(オプションとする)。

- (8) 端末Aから発信し、サーバの通信ケーブルを抜去して、同様に端末Aと端末Bを確認する。
- (9) 端末Bから発信し、サーバの通信ケーブルを抜去して、同様に端末Aと端末Bを確認する。

1 1 - 3. 合否判定

試験手順の動作が確認でき、通話中ケーブル抜去に関して問題がないことを各機器ともに確認できた場合に合格とする。

1 1 - 4. 試験結果の記入

試験マトリクスで規定された端末側が別紙9のチェックシートに試験結果を記入する。

また、試験中に何らかの不具合事象が認められた場合は、支障の無い範囲で状況（現象・原因・処置など）をチェックシートに記入することが望ましい。

1 1 - 5. オプション試験（参考）

両社間で調整が取れ、時間がある場合などには以下のオプション試験を実施していても良い。

1 1 - 5. 1 通話中電源断／アプリケーション強制終了

- (1) 端末Aから発信し端末Bで着信し通話状態とする。
- (2) 端末Bの装置電源を断、またはアプリケーションを終了とする。端末Aを試験対象端末とする。
- (3) 端末Aは事前に確認した手順に従って端末Bとの呼を終了することを確認する。
- (4) 端末Aは正常に元の状態(発着信できる初期状態)に戻ることを確認する。
- (5) 端末Aから発信し、端末Aの電源断、またはアプリケーション終了で同様に端末Bを確認する。
- (6) 端末Bから発信し、端末Aの電源断、またはアプリケーション終了で同様に端末Bを確認する。
- (7) 端末Bから発信し、端末Bの電源断、またはアプリケーション終了で同様に端末Aを確認する。

1 2. 結果の取り扱いと今後の検討課題

1 2-1. 試験の取り扱い

相互接続試験参加の各社から提出された試験結果は、試験事務局で取りまとめる。

また、試験手順、方法、場所、結果などの記録を残すことにより、今後の試験の効率化を図る。

相互接続試験の実施に伴い、本相互接続試験実施要領についての要望や見直しの要求が発生した場合には、試験事務局またはマルチメディア通信相互接続試験実施連絡会に対して適宜検討を要請することができる。それを受けて、連絡会では適宜審査を実施する。

1 2-2. その他

試験により確認された標準規定内容の問題等については、適宜標準化活動へのフィードバックを検討する。

別紙1 SIP 付加サービス機能試験 結果一覧

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

自社 [会社/機関名: 機種名:]
 他社 [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

電話のサービス機能試験項目リスト

項番	項目	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	発信番号通知	発信番号が正常に通知され応答通話が可能なこと。		詳細結果は別紙2に記載
2	セッションタイム	セッションタイムのやり取りが正常に行われること。		詳細結果は別紙3に記載
3	100rel	PRACK メソッドのやり取りが行われていること。		詳細結果は別紙4に記載
4	保留・保留応答	保留・保留応答機能が正常に行われること。		詳細結果は別紙5-1に記載
5	保留転送	保留転送の組合せ試験が正常に行われること。		詳細結果は別紙5-2に記載
6	音声コーデック	指定コーデックで正常に接続・切断できること。		詳細結果は別紙6に記載

準正常試験項目リスト

項番	項目	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
7	キャンセル	キャンセル動作が正常に実施されること。		詳細結果は別紙7に記載
8	リジェクト・ビジー	リジェクトの動作が正常に実施されること。		詳細結果は別紙8に記載
—	準正常試験	上記2種の試験がすべて合格のこと。		(準正常試験の総合判定)

異常試験項目リスト

項番	項目	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
9	ストレス試験	異常状態に陥ることなく正常に終了すること。		詳細結果は別紙9に記載

— MEMO —

.....

別紙2 発信番号通知試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
		担当者	
試験場所		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

試験項目リスト

(1) 発信番号通知

項番	発側	着側	着側端末の Type	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	端末 A	端末 B	Type1	発信番号が正常に可視表示され 応答通話が可能なこと。		
		端末 B	Type2	発信番号が正常に通知され 応答通話が可能なこと。		
2	端末 B	端末 A	Type1	発信番号が正常に可視表示され 応答通話が可能なこと。		
		端末 A	Type2	発信番号が正常に通知され 応答通話が可能なこと。		

(2) 発信番号非通知 (オプション試験項目)

項番	発側	着側	着側端末の Type	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	端末 A	端末 B	Type1	発信番号が通知されず可視表示 もされず、応答通話が可能なこと。		
		端末 B	Type2	発信番号が通知されず 応答通話が可能なこと。		
2	端末 B	端末 A	Type1	発信番号が通知されず可視表示 もされず、応答通話が可能なこと。		
		端末 A	Type2	発信番号が通知されず 応答通話が可能なこと。		

- MEMO -

【上記不具合の詳細】

.....

別紙3 セッションタイム試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

試験項目リスト

(1) セッションタイム値 [秒] 使用メソッド(□INVITE □UPDATE)

項番	発側	着側	発信側 Refresher 設定	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	端末 A	端末 B	設定なし	セッションタイムのやり取りが正常に行われること。		
2			uac	同上		
3			uas	同上		
4	端末 B	端末 A	設定なし	セッションタイムのやり取りが正常に行われること。		
5			uac	同上		
6			uas	同上		

(2) 別条件 (セッションタイム値 [秒] 使用メソッド(□INVITE □UPDATE))

項番	発側	着側	発信側 Refresher 設定	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	端末 A	端末 B	設定なし	セッションタイムのやり取りが正常に行われること。		
2			uac	同上		
3			uas	同上		
4	端末 B	端末 A	設定なし	セッションタイムのやり取りが正常に行われること。		
5			uac	同上		
6			uas	同上		

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

別紙4 100rel試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

項番	発側	着側	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	端末 A	端末 B	発信から呼出、キャンセル動作までの間に PRACK メソッドのやり取りが正常に行われ、両端末とも初期状態に戻ることに。		
2	端末 B	端末 A	発信から呼出、キャンセル動作までの間に PRACK メソッドのやり取りが正常に行われ、両端末とも初期状態に戻ることに。		

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

.....

.....

別紙5-1 保留・保留応答試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

シナリオ No.	試験概要	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	A から B への発信→A が保留→A が保留解除→A が切断		
2	A から B への発信→A が保留→A が保留解除→B が切断		
3	A から B への発信→B が保留→B が保留解除→A が切断		
4	A から B への発信→B が保留→B が保留解除→B が切断		
5	B から A への発信→B が保留→B が保留解除→B が切断		
6	B から A への発信→B が保留→B が保留解除→A が切断		
7	B から A への発信→A が保留→A が保留解除→B が切断		
8	B から A への発信→A が保留→A が保留解除→A が切断		

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

別紙5-2(基本パターン1) 保留転送試験 チェックシート(組み合わせ No.1 と No.2)

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
		担当者	
試験場所		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 UA C [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

シナリオ No.	試験概要	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	A から B への発信→A が保留→A が C へ転送→B と C の通話→A が切断(B と C に影響なし)→B が切断 ※C は A 社製		
2	A から B への発信→A が保留→A が C へ転送→B と C の通話→A が切断(B と C に影響なし)→C が切断 ※C は A 社製		
3	A から B への発信→B が保留→B が C へ転送→A と C の通話→B が切断(A と C に影響なし)→A が切断 ※C は A 社製		
4	A から B への発信→B が保留→B が C へ転送→A と C の通話→B が切断(A と C に影響なし)→C が切断 ※C は A 社製		
5	B から A への発信→B が保留→B が C へ転送→A と C の通話→B が切断(A と C に影響なし)→A が切断 ※C は A 社製		
6	B から A への発信→B が保留→B が C へ転送→A と C の通話→B が切断(A と C に影響なし)→C が切断 ※C は A 社製		
7	B から A への発信→A が保留→A が C へ転送→B と C の通話→A が切断(B と C に影響なし)→B が切断 ※C は A 社製		
8	B から A への発信→A が保留→A が C へ転送→B と C の通話→A が切断(B と C に影響なし)→C が切断 ※C は A 社製		

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

別紙5-2(基本パターン2) 保留転送試験 チェックシート(組み合わせ No.3 と No.4)

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
		担当者	
試験場所		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 UA C [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

シナリオ No.	試験概要	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	A から B への発信→A が保留→A が C へ転送→B と C の通話→A が切断(B と C に影響なし)→B が切断		
2	A から B への発信→A が保留→A が C へ転送→B と C の通話→A が切断(B と C に影響なし)→C が切断		
3	A から B への発信→B が保留→B が C へ転送→A と C の通話→B が切断(A と C に影響なし)→A が切断		
4	A から B への発信→B が保留→B が C へ転送→A と C の通話→B が切断(A と C に影響なし)→C が切断		

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

別紙5-3 保留・保留応答(被保留端末切断時の動作) オプション試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

シナリオ No.	試験概要	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	A から B への発信→A が保留→B が切断		
2	A から B への発信→B が保留→A が切断		
3	B から A への発信→B が保留→A が切断		
4	B から A への発信→A が保留→B が切断		

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

別紙5-4 保留・保留応答(INVITEによるセッションタイムとの複合) オプション試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
		担当者	
試験場所		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

シナリオ No.	試験概要	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	A から B への発信→A がリフレッシュ→A が保留→A が保留解除→A が切断		<input type="checkbox"/> (9)省略可
2	A から B への発信→A がリフレッシュ→A が保留→A が保留解除→B が切断		<input type="checkbox"/> 省略可
3	A から B への発信→B がリフレッシュ→A が保留→A が保留解除→A が切断		<input type="checkbox"/> 省略可
4	A から B への発信→B がリフレッシュ→A が保留→A が保留解除→B が切断		<input type="checkbox"/> (9)省略可
5	A から B への発信→A がリフレッシュ→B が保留→B が保留解除→A が切断		<input type="checkbox"/> 省略可
6	A から B への発信→A がリフレッシュ→B が保留→B が保留解除→B が切断		<input type="checkbox"/> (9)省略可
7	A から B への発信→B がリフレッシュ→B が保留→B が保留解除→A が切断		<input type="checkbox"/> 省略可
8	A から B への発信→B がリフレッシュ→B が保留→B が保留解除→B が切断		<input type="checkbox"/> 省略可
9	B から A への発信→B がリフレッシュ→B が保留→B が保留解除→B が切断		<input type="checkbox"/> (9)省略可
10	B から A への発信→B がリフレッシュ→B が保留→B が保留解除→A が切断		<input type="checkbox"/> 省略可
11	B から A への発信→A がリフレッシュ→B が保留→B が保留解除→B が切断		<input type="checkbox"/> (9)省略可
12	B から A への発信→A がリフレッシュ→B が保留→B が保留解除→A が切断		<input type="checkbox"/> 省略可
13	B から A への発信→B がリフレッシュ→A が保留→A が保留解除→B が切断		<input type="checkbox"/> (9)省略可
14	B から A への発信→B がリフレッシュ→A が保留→A が保留解除→A が切断		<input type="checkbox"/> 省略可
15	B から A への発信→A がリフレッシュ→A が保留→A が保留解除→B が切断		<input type="checkbox"/> (9)省略可
16	B から A への発信→A がリフレッシュ→A が保留→A が保留解除→A が切断		<input type="checkbox"/> 省略可

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

別紙5-5 保留転送(転送先ビジー時の動作) オプション試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
		担当者	
試験場所		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 UA C [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

シナリオ No.	試験概要	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	A から B への発信→A が保留→A が C(ビジー状態)へ転送→A が保留解除→A と B の通話→A が切断 ※C は A 社製		
2	A から B への発信→A が保留→A が C(ビジー状態)へ転送→A が保留解除→A と B の通話→B が切断 ※C は A 社製		
3	A から B への発信→B が保留→B が C(ビジー状態)へ転送→B が保留解除→B と A の通話→A が切断 ※C は A 社製		
4	A から B への発信→B が保留→B が C(ビジー状態)へ転送→B が保留解除→B と A の通話→B が切断 ※C は A 社製		
5	B から A への発信→B が保留→B が C(ビジー状態)へ転送→B が保留解除→B と A の通話→B が切断 ※C は A 社製		
6	B から A への発信→B が保留→B が C(ビジー状態)へ転送→B が保留解除→B と A の通話→A が切断 ※C は A 社製		
7	B から A への発信→A が保留→A が C(ビジー状態)へ転送→A が保留解除→A と B の通話→B が切断 ※C は A 社製		
8	B から A への発信→A が保留→A が C(ビジー状態)へ転送→A が保留解除→A と B の通話→A が切断 ※C は A 社製		

- MEMO -

【上記不具合の詳細】

.....

別紙5-6 条件転送(無条件転送) オプション試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 UA C [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

シナリオ No.	試験概要	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	AからBへの発信→(Bに着信せず)Cに着信→AとCの通話→Aが切断 ※CはA社製		
2	AからBへの発信→(Bに着信せず)Cに着信→AとCの通話→Cが切断 ※CはA社製		
3	BからAへの発信→(Aに着信せず)Cに着信→BとCの通話→Bが切断 ※CはB社製		
4	BからAへの発信→(Aに着信せず)Cに着信→BとCの通話→Cが切断 ※CはB社製		

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

別紙6 音声コーデック追加試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

項番	項目		判定基準	結果 (○または×)	備考 (音声コーデック、問題点等記入)
1	発呼側 端末 A	音声通信の 確認	各音声コーデックで音声通信を確認する。		音声コーデック:
		相手切断	相手切断に対して正常に切断されること。		
		自切断	自切断に対して正常に切断できること。		
4	発呼側 端末 B	音声通信の 確認	各音声コーデックで音声通信を確認する。		音声コーデック:
		相手切断	相手切断に対して正常に切断されること。		
		自切断	自切断に対して正常に切断できること。		

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....

別紙7 キャンセル(発信途中放棄)試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

項番	発側	着側	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	端末 A	端末 B	呼出状態が止まって正常にキャンセル後、 両端末とも初期状態に戻ることに。		
2	端末 B	端末 A	呼出状態が止まって正常にキャンセル後、 両端末とも初期状態に戻ることに。		

- MEMO -

【上記不具合の詳細】

.....

別紙8 リジェクト・ビジー(着信拒否・話中応答)試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

項番	発側	着側	判定基準	結果 (○または×)	備考 (問題点等記入)
1	端末 A	端末 B	リジェクト通知がされた後、 両端末とも初期状態に戻ること。		
2	端末 B	端末 A	リジェクト通知がされた後、 両端末とも初期状態に戻ること。		

- MEMO -

【上記不具合の詳細】

.....

.....

.....

別紙9 ストレス試験 チェックシート

[記入者]

試験日時	年 月 日 : ~ :	会社	
試験場所		担当者	
		TEL	
		FAX	

UA A [会社/機関名: 機種名:]
 UA B [会社/機関名: 機種名:]
 サーバ [会社/機関名: 機種名:]

試験項目リスト

試験条件	異常時切断方式
端末 A	<input type="checkbox"/> セッションタイム <input type="checkbox"/> 通話異常知覚によるオンフック <input type="checkbox"/> 受信信号異常検知による自動切断 <input type="checkbox"/> その他
端末 B	<input type="checkbox"/> セッションタイム <input type="checkbox"/> 通話異常知覚によるオンフック <input type="checkbox"/> 受信信号異常検知による自動切断 <input type="checkbox"/> その他

(1) 通話中ケーブル抜去

項番	発呼	試験端末	通信ケーブル抜去	判定基準	結果 (○または×)
1	端末 A	端末 A	端末 A	端末 A が正常に切断されること。	
		端末 B		端末 B が正常に切断されること。	
2	端末 A	端末 A	端末 B	端末 A が正常に切断されること。	
		端末 B		端末 B が正常に切断されること。	
3	端末 B	端末 A	端末 A	端末 A が正常に切断されること。	
		端末 B		端末 B が正常に切断されること。	
4	端末 B	端末 A	端末 B	端末 A が正常に切断されること。	
		端末 B		端末 B が正常に切断されること。	
以下の項目は、試験実施時に他社に影響なく実施可能であれば行うものとする(オプション)。					
5	端末 A	端末 A	サーバ	端末 A が正常に切断されること。	
		端末 B		端末 B が正常に切断されること。	
6	端末 B	端末 A	サーバ	端末 A が正常に切断されること。	
		端末 B		端末 B が正常に切断されること。	

(2) 通話中電源断/アプリケーション強制終了(オプション試験)

項番	発呼	試験端末	装置電源断またはアプリケーション終了	判定基準	結果 (○または×)
1	端末 A	端末 A	端末 B	端末 A が正常に切断されること。	
2		端末 B	端末 A	端末 B が正常に切断されること。	
3	端末 B	端末 A	端末 B	端末 A が正常に切断されること。	
4		端末 B	端末 A	端末 B が正常に切断されること。	

— MEMO —

【上記不具合の詳細】

.....
